

“大型”のベニクラゲ（ヒドロ虫綱，花クラゲ目）の
千葉県沿岸への初出現

久保田 信・大藪 健

Shin KUBOTA and Ken OYABU: First occurrence of “large type” of *Turritopsis*
(Hydrozoa, Anthomedusae) medusae in coastal waters of Chiba Prefecture, Japan

南 紀 生 物
第52巻 第2号 別 刷

Reprinted from
NANKISEIBUTU: The Nanki Biological Society
Vol. 52, No. 2
Dec. 2010

“大型”のベニクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) の 千葉県沿岸への初出現

久保田 信*・大藪 健**

Shin KUBOTA and Ken OUYABU: First occurrence of “large type” of *Turritopsis*
(Hydrozoa, Anthomedusae) medusae in coastal waters of Chiba Prefecture, Japan

はじめに

ベニクラゲ類 (刺胞動物門, ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) は, わが国では北海道から沖縄県まで広く分布し, 形態的には2型が, 分子系統学的には3型が区別されている (KUBOTA, 2005; 久保田, 2007, 2010)。しかし, 日本各地での成熟クラゲの採集個体数は少なく, 一度に150個体以上が観察・採取された鹿児島県や福島県 (築地新・久保田, 2003; 久保田ほか, 2005) を除き, 十分な個体数での形態変異が調べられてはいない。このような状況の中で, 今回, 千葉県九十九里浜で多数のベニクラゲが目撃され, その4日後にこの海域から初めて複数のベニクラゲが採取された。そこで, 今回, それらのベニクラゲの形態と型の決定について報告する。

材料と方法

千葉県長生郡一宮町の東浪見海水浴場で (図1), 2010年7月16日18時頃, 海表面付近に紅色が鮮やかな本種のクラゲが集積されていたのを (20 cm²に約5個体) 大藪が発見し, 数十m²の範囲にわたっての出現を確認した。4日後の7月20日には, 同地点での密度は極めて低

くなり, 数百mほど泳ぎながら少数個体が採集できた。なお, 砂浜のなぎさ線上に打ち上げられた個体もみられ, 7月16日には約100 mの距離に約100個体ほどの打ち上げ個体が確認されたが, 7月20日には同距離でわずかに数個体の打ち上げと減少した。現場の水温は推定で約15℃だった。

採取した生体は, 冷やしてすぐに和歌山県白浜町に所在する久保田研究室に届けられ, 受け取り直後, クラゲ

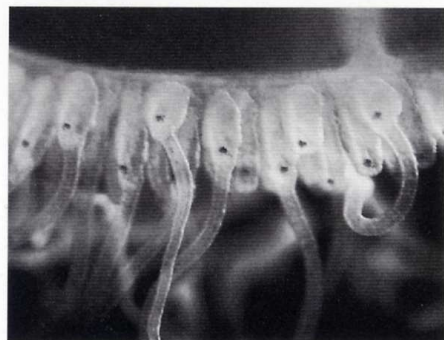
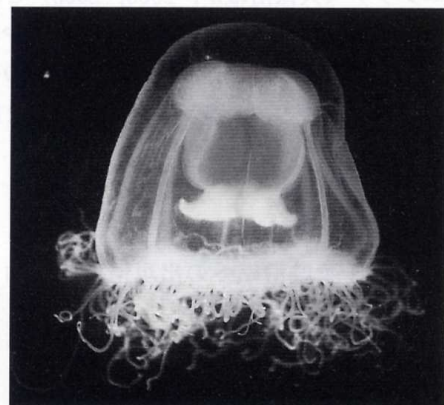


図2, 3 千葉県長生郡一宮町沿岸で採取された“大型”のベニクラゲの成熟雄個体 (傘径7.7 mm) を側面から撮影した写真 (図2) とその傘縁の一部の拡大写真 (図3)

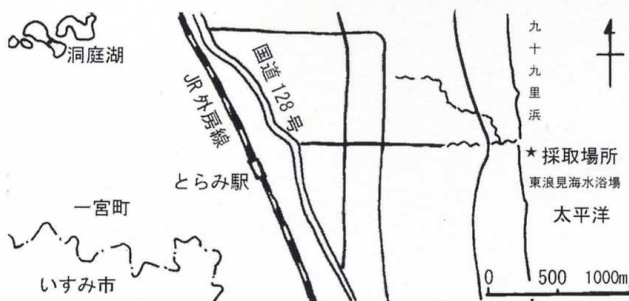


図1 千葉県長生郡一宮町でベニクラゲが目撃・採取された地点

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459,
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

** 〒299-4501 千葉県いすみ市岬町椎木426-5

の形態は双眼実体顕微鏡を用いて検査された。

結果と考察

4 個体中の半数は雄で、残り 2 個体の成熟雌は口柄の間軸部に卵やプラヌラ幼生（実験室で遊離と浮遊・遊泳を確認）を保育していた。4 個体中の最大個体であった雄は、傘径が 7.7 mm で、傘縁に 206 本の糸状触手が 3 環列に配列し、各触手瘤の内側に紅色の眼点が 1 個あった（図 2, 3）。口柄は口唇を除き、全体が鮮やかな紅色であった。空胞細胞が口柄上部に形成され、放射管は 4 本見られ、中膠は不透明であった。

本個体はいずれも、触手の配列と口柄の色彩から、わが国で形態的に 2 型が区別されているベニクラゲ類のうちの“大型”（北日本に分布）に区分できた。千葉県長生郡一宮町は、神奈川県三崎に次ぐわが国太平洋沿岸での“大型”のベニクラゲの分布の南方記録地となる（KUBOTA, 2005; 久保田, 2010）。今回採取されたいずれの個体も、福島県産の同型の最大級（最大で傘径 12.8 mm、傘縁には糸状触手が最多で 341 本が 3 - 4 環列に配列）のベニクラゲ（久保田ほか, 2003, 2005）と比較して、成熟していたものの、少し小形で触手数も少なかった。なお、現場で目撃された他のすべての紅色のベニクラゲも、ほぼ全てがこの“大型”に属するものと推定される。

謝 辞

ベニクラゲの千葉県沿岸への出現情報をお知らせ下

さった千葉県環境生活部自然保護課生物多様性戦略推進室生物多様性センターの柳 研介博士に感謝致します。

引用文献

- 築地新 光子・久保田 信. 2003: 鹿児島湾に出現した多数のベニクラゲ（刺胞動物門、ヒドロ虫綱、花クラゲ目）とその若返りについて. 日本生物地理学会会報, **58**, 35-38.
- KUBOTA, S. 2005: Distinction of two morphotypes of *Turritopsis nutricula* medusae (Cnidaria, Hydrozoa, Anthomedusae) in Japan, with reference to their different abilities to revert to the hydroid stage and their distinct geographical distributions. *Biogeography*, **7**, 41-50.
- 久保田 信. 2007: 不老不死のベニクラゲ. *in* 和歌山県立自然博物館（編）, 刺胞をもつ動物? サンゴやクラゲのふしぎ大発見. 第 25 回特別展「刺胞動物展」解説書, 38-39. 和歌山県立自然博物館, 和歌山.
- . 2010: 不老不死で若返るベニクラゲ類の生活史. 遺伝, **64** (5), 86-92.
- ・水谷 精一. 2003: 北日本産のベニクラゲ（ヒドロ虫綱、花クラゲ目、クラバ科）における退化後の不思議な運命. 南紀生物, **45** (2), 107-109.
- ・北田 博一・水谷 精一. 2005: 福島産ベニクラゲ（ヒドロ虫綱、花クラゲ目）のクラゲの生物学的観察. 日本生物地理学会会報, **60**, 39-42.



図 1 千葉県沿岸のベニクラゲの出現情報（久保田ほか, 2003, 2005）